

平成30年10月25日

報 告 書

島田市議会議長 様

横田川真人	大関 衣世
大村 泰史	河村 晴夫
齊藤 和人	伊藤 孝
横山 香理	藤本 善男
村田千鶴子	曾根 嘉明
桜井 洋子	佐野 義晴
杉野 直樹	大石 節雄
福田 正男	森 伸一
山本 孝夫	八木 伸雄
清水 唯史	平松 吉祝

議会報告会・商工会議所と議会との意見交換会に出席しましたので、次のとおり報告します。

1 日 時 平成30年10月25日（木）
午後1時30分～午後3時30分

2 会 場 島田市役所 4階 第3委員会室

3 参加者数 議会 20人（男性 16人、女性 4人）
商工会議所 20人（男性 19人、女性 1人）

4 役 割

- (1) 司会 清水副議長
- (2) 挨拶（概要） 大石議長
- (3) 記録 横山議運委員

5 報告事項

(1) 商工会議所の活動状況について

(佐久間専務理事より)

～組織体制～

- ・商工会議所法に基づき特別認可方式に位置付けられている。
- ・地域の産業・工業・商工の総合的な改善と発達を目的としている。
- ・県下に 15 あり全国に 515 ある会員組織。昭和 26 年に発足し、67 年目を迎える。旧島田地区エリアとし、会員 1675 事業所。
- ・議員 80 人を選出。8 委員会、会員は 7 つの部会に所属。業種に合った部会に所属し、青年部・女性部・事務局 15 人などで構成されている。会員は去年の例で入会は 79 人・脱会は 58 人。脱会の理由は廃業が約 60%。島田の加入率は 60% と高い割合で加入していて、県下でもナンバー 1 である。

～活動内容～

島田商工会議所の概要説明パンフレット「島田商工会議所：入会のすすめ」に沿って説明があった。

- ① 企業経営をサポート（巡回窓口の昨年実績は 2557 件。マル経資金では小規模事業者は無担保・無保証人で融資額 2000 万円以内）
- ② 情報収集・情報発信をサポート（各種証明書・会議所ニュースの発行等）
- ③ 人づくりをサポート（共済制度・セミナー・従業員のスキルアップ・永年勤続従業員表彰等）
- ④ まちづくりをサポート（中心市街地活性化・さくらめしのイベント参加等の観光振興）
- ⑤ 地域振興をサポート（富山県氷見商工会議所と友好提携締結）
- ⑥ ロケ支援フィルムサポート（14 作品の支援から 1700 万の経済効果が見込まれた。）

(2) 平成 31 年度 市行政に関する要望の内容説明

(坂田事務局長より)

島田商工会議所が平成 30 年 9 月 25 日に市長に提出した「平成 31 年度 市行政に関する要望書」の 19 項目（継続 15 件・新規 4 件）について、資料も参考にしながら詳しい内容説明があった…別紙参照

～要望の中での特筆すべき点～

- ・準工業地域における大型集客施設に係る現建築規制（1 万㎡超）を、本県における大規模小売店舗新設の実態相当に規制する要望。
- ・市道大井川右岸 1・2 号線が大型車両のすれ違いに余裕がなく危険な状態が続いているため、拡幅の要望。
- ・JR 六合駅南側のきめ細かな用途地域の見直しについての要望。
- ・島田市における観光施策の展開として地域資源を結ぶ回遊性の向上と誘客についての要望。
- ・島田さくらめしの開発に係る補助制度の創設についての要望。

- ・学校と地域が連携した放課後の空き教室等を利用した情操教育を受けられる体制づくりについての要望。
- ・在宅医療・介護連携における支援体制の充実について、市民への普及・啓発を充実させ、必要な人に的確に支援が届く仕組みづくりを要望。

(3) 意見交換

(島田市中小企業・小規模企業振興条例について)

- Q・この条例は理念をうたっているが、具体的にどのように進めていくのか。
- A・様々な議論をし、そこから生み出していくのが条例の理念ではないかと思っている。具体的には推進会議を開くこと。今年度は2回開催するというので、もうじき開催されるのではないか。その中で市が受け止めていく。

(おびサポについて)

現在おびサポは利用率が高く、また高い評価を受けている。補助金申請の手続きが多い。

(放課後の空き教室を利用した情操教育を受けられる体制づくりについて)

- Q・議員より…どのような背景からこのような要望がでているか。
- A・20代～40代の青年部の思いがあった。子育て世代からの関心があり、広い意味で情操教育を受けさせたいという声があった。
- A・地域の子どもが地域に根差してほしいというところの意味もある。
- A・議員より…厚生教育常任委員会の管轄になるので、こちらはまた調査・研究していきたい。

(要望に対する議員のコンセンサスについて)

- Q・要望を遂行するために、借金をしてでも遂行する。そうしたことに議員のコンセンサスを得られているか。
- A・議員に執行権はない。現在の市長の考えは、将来に借金を残さない。いろいろなものを削りながら、しかし使うべきところは使うということで様々な提案をしている。今回たくさん要望をいただいているが、すべてできるものではない。ただ市が本当に必要だということ、そして商工会議所のみなさんと同じ方向を向いたとき財政が厳しいからやめる、といった立場はとりたくない。その先に発展する可能性があるものについては、必要な時に必要な予算をつけて新しくする。議会はそういう立場でよいと思う。ただしブレーキをかけるものはかける、そういう立場であることもご理解いただきたい。将来設計・財政設計を見ながら判断していかなければならない。
- A・補足になるが、各議員が研修・視察など外部の情報を得て一般質問など行って提案している。
- A・提案にもある企業誘致を含め、経済効果を高めて税収を上げることは重要であるが、過去とは違う。ただ下を向かず島田市の発展に必要なことはやるべきこ

とはやる、これは共通に思っている。

(将来の担い手について)

Q・市の考えがあって、それに対して何か対策をしていることはあるか。

A・国立社会保障・人口問題研究所の推計で、島田市の人口割合は平成40年には8万13人。年少人口が全体の11%・15歳～64歳は約50%・65歳～は約39%と、今後を担う年少人口が少ない。移住定住対策でもなかなか解決しない。県外に出た方に戻ってもらうため、商工会議所の皆さんと民間と市が連携し、高校生に職業体験等を通して情報をキャッチしてもらう。島田の産業が活発なら戻って来てもらえると考えられるので、情報交換をして連携していきたい。思うような仕事があれば戻って来るチャンスはある。

A・若者が地元を知ってもらう機会をつくる。産業界も行政も頑張らなければならない。戻って来る場所を手掛けることも大切。

(さくらめしについて)

Q・議員より…要望に出ていたさくらめしの開発に係る費用はどれくらいなのか。

A・啓蒙、普及を目的としている。新しいものを高い材料で作るわけではないので、5,000円でもいい。啓蒙、普及の補助制度の創設をお願いしたい。

Q・フランス料理のさくらめし・魚屋のさくらめしなど楽しいアイデアを出すために10～50万円をつけていただきたい。

A・幾らつけますとは言えないが、ひとつのシティプロモーションとして、島田市の発信に繋がる。

(商工会議所への補助金について)

Q・商工会と商工会議所の補助金の差を改善できないか。

A・そうした話が出ていることは聞いている。将来的にどうあるべきか考える必要はある。

(地域未来投資促進法について)

Q・昨年、地域未来投資促進法が施行されている。これについて勉強してもらい、夢を創ってもらいたいがいかがか。

A・何かをやる時、地域で種をどう見つけるかに尽きる。勉強させていただく。

6 まとめ(所見)

非常に有意義な意見交換会だった。連携しあい、議員もできることはしっかりやっていきたい。